

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

## (1) 成果

## 【低学年】

- ・平仮名の形を意識して文字を書く時間を定期的を設定し、正しく丁寧に書くことを繰り返し指導したことで、文字を習熟し、形に気を付けて丁寧に書く姿勢も身に付いた。
- ・漢字小テストなど学習した漢字を振り返る機会を頻繁につくることで、児童が確実に新出漢字を覚えられるようにでき、漢字検定にも9割以上の児童が合格した。
- ・毎日音読に取り組むようにしたことで、文章の内容をより正確に読み取る手助けとすることができた。
- ・常時活動としてスピーチに取り組んだことで、日々の出来事の中から話す内容を見つけることができるようになり、みんなの前で話したり、よく聞いて質問したりすることができるようになった。
- ・単元の学習の流れを示したり、1時間の学習の流れを掲示したりすることで、見通しをもって学習できるようになった。また、「自分タイム」という自己解決の時間を十分に取ったことで、安心感をもって対話的な活動に取り組む様子が見られた。
- ・対話的な活動において、ねらいや目的を明確にしたり交流方法を工夫したりすることで、児童が多様な考えに触れ、自分の考えを明確にすることができた。また、文章を読み取っていく学習活動にも生かせるようになってきた。
- ・「あのね日記」を習慣化することで、書くことへの抵抗が減り、考えたことを積極的に文章に表すことができるようになった。
- ・学習を進める中で、様々な思考ツールや話型を提示し、自分の学びに合ったものを選ぶようにしてきた。それにより、考えを表現する幅が広がった。
- ・児童が「問い」を作って読みを深められるようにしたことが、主体的な対話活動につながった。
- ・対話的な活動の充実を目指し、「受け止め言葉」「コトバンク」などの語彙集を、授業の中で取り上げ、教室掲示した。それによって、児童が主体的に語彙を増やすことができた。

## 【中学年】

- ・漢字やローマ字を定着させるために、宿題やスキル、タブレットで反復練習を習慣化したり、既習漢字を積極的に用いることを伝えたりして、定着を図ることができた。
- ・「はじめ・中・終わり」の構成を考えて3つ以上の段落で構成した文章、調べたことをまとめた報告分を書くことができるようになってきた。また、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しよう意識して文章を書けるようになった。
- ・書き出しの工夫をすることや自分の考えや気持ちを伝える言葉を選んで文章を書く学習を通して、自分の考えやそれを支える理由、分かりやすく伝えるために具体例を入れて表現しよう意識して文章を書こうとする姿が見られるようになってきた。
- ・言語活動の充実のために、教科書や漢字スキルの学習、読書活動、調べ学習等で分からない言葉が出てきたときには積極的に国語辞典を用いた。その結果、語彙力が増え、正しい言葉を使って文章を書ける児童が増えた。
- ・付箋交流を続けることで友達の良いところに目を向け、それを伝える楽しさや嬉しさを味わうことで自分の気持ちや考えを伝えようとする姿が見られた。
- ・家庭学習や授業中で音読活動を積極的に取り入れた。特に、物語文の学習で音読方法を工夫したことで、登場人物の心情変化に気付けるようになった。
- ・物語文の学習では、全文シート（番号有り）を活用した。それにより、登場人物の行動・心情がどこに書かれているのか、すぐに分かるようになった。
- ・物語文の学習では、自分の考えが分かるように色別の付箋を活用した。色の違いから、自分と友達との考え方の違いに気づけるようになった。

### 【高学年】

- ・文章表現が豊かな作品を紹介しあったり、自作の詩や俳句を教室内に掲示したりして、多くの言葉に触れさせ語彙が増える環境を整えることに注力した。そのことで、活用しようとする姿が見られた。
- ・自分の考えを書かせるときに、立場を明らかにする話型を最初に入れることで、書くことが苦手な児童も自分の立場を明確にして考えを書くことができた。
- ・物語文や説明文などの読む単元では、内容把握に時間をかけるのではなく、「精査・解釈」する段階を重点にして配分した。このことで、豊かな意見に触れることができ、様々な考えを交流することができた。
- ・説明文の学習の際には、文章構成や接続語、中心となる語や文、キーワードの着目させることで、筆者の考えや主張を読み取ったり文章の要約をしたり要旨をまとめたりすることができるようになってきた。
- ・対話的な活動の場面では、タブレットを活用したことで、短時間で効果的に互いの考えを共有することができた。それにより、一人一人の児童が自分自身の思考の深まりを実感することができた。
- ・書くことが苦手な児童も、タブレットを用いることで自分の考えを書く活動に参加することができ、主体的な学びにつながった。今後も個人差を補うために、効果的にタブレットを活用していくことが有効であると考えた。
- ・文章を書く際には、モデル文を示しながら、構成メモにそれぞれの段落に書く内容を精査させてから文章を書き始めた。それにより、自分の経験したことや自分の考えが明確になり、その描写を想像しながら、自分の思いが伝わるような言葉をじっくり選び文章にしていく児童が増えてきた。

## (2) 課題

### 【低学年】

- ・拗音や促音の表記の仕方をまだ身に付けられていない児童がいるため、繰り返し指導する必要がある。
- ・ワークシートや言語活動を工夫したことで、より主体的に学習に取り組める児童が出てきたが、それでも難しさを感じている児童もおり、さらに工夫する必要がある。
- ・対話的な活動を進める中で、自分の考えを伝えることが難しい児童もいる。交流の仕方を身に付けられるような指導の工夫が必要だ。
- ・考えを共有する場面で、友達の考えを聞いた上で新たな考えを見出し、複数の考えを関係づけたり、統合したりするといった自分の考えを広げたり深めたりするための手立てを授業の中で取り入れる必要があった。
- ・既習の漢字に関するテストの点数は9割を超えることが多いが、文章内で使うことが未だに難しいことが課題である。

### 【中学年】

- ・改行や段落、句読点など、作文の形式について定着していない児童が多数いるので、個別的に声をかけるだけではなく、原稿用紙の正しい使い方等、引き続き全体指導をしていく必要がある。
- ・「そして」「それから」を多用したり、「しかし」を誤用していたりするなど接続語を正しく使えない児童が見られる。適切な接続語を用いて段落を構成したり、文章を書いたりできるように継続して指導を続けることが必要である。
- ・漢字の読み書きには定着の二極化が見られるので、苦手な児童への丁寧な指導を続けていく。

- ・対話的な活動を通して友達の考えを知り、自分の考えの広がりや深まりに活かせるように、今後も交流のねらいや目的、様々な交流方法を取り入れたり、話し合いの仕掛けを作ったりしていくことが必要である。
- ・物語文において、自分達よりも年上の登場人物や時代背景の違う物語の登場人物の心情を捉えることが、なかなか難しいことがある。単元の初めに、物語の背景や場面設定について押さえていくことも必要である。
- ・話し合いの流れや話型、動機付けなど仕掛けを作らないとなかなか自分から話し合うことができなかった。また、仕掛けを作っても苦手意識をもっている子にとってはできなかった。
- ・新出漢字の定着のためのミニテストを行っているが、実際にノートや作文などで文章を書く際、平仮名を多用する児童が多い。学習したことを活用できるようにしていく指導の工夫が必要である。

### 【高学年】

- ・読書に親しむ子とそうでない子の差が大きく、良い文章に触れる機会が少ない児童がいた。朝読書や図書時間に本を読ませるだけでなく、国語の単元学習の中でブックトークを行ったりさまざまな分野の本を紹介したりして、多くの児童が良い文章に触れる機会を作っていく必要がある。
- ・文章を書く時に、どう書いていいのかわからなかったり書いたことに自信がもてなかったりした子もいる。そのため、書かせる段階で、モデル文を提示し個別支援をすることに加え、友達同士でアドバイスする時間を確保し、書くことに対する不安感を解消していく。
- ・物語文や説明文の内容を読み取ることに苦手意識をもっている児童がいる。音読や既習事項の学習を授業の中に取り入れ、文章の構造や内容把握ができるよう指導の工夫をしていくことが必要である。
- ・児童の考えを広げたり深めたりし、思考を深めていくために、対話的な活動の中で児童同士が、「友達の考えを聞いてみたい」と対話をしたくなるような発問を吟味し、活動場面を設定していくようにする。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った。 ○…目標値と同程度。 △…目標値を下回った。

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	◎ (第4学年時)	
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年)

### (2) 分析（観点別）

#### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・一項目をのぞき、おおむね目標値、区平均、全国平均	・一項目をのぞき、おおむね目標値、区平均、全国平均	・全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている

<ul style="list-style-type: none"> <li>を上回っている。</li> <li>言葉の特徴や使い方に関する事項の「漢字を読む」「漢字を書く」項目においては目標値を大幅に上回っている。</li> <li>言葉の特徴や使い方に関する事項の「主語と述語の関係」で10ポイント目標値を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>を上回っている。</li> <li>読むこと領域の「説明文の内容を読み取る」項目においては目標値を大幅に上回った。</li> <li>読むこと領域の「登場人物気持ちの変化について具体的に想像している」においては、6ポイント目標値を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>る。主体的に学習に取り組む態度は概ね定着している。</li> </ul>
---	--	---

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。</li> <li>言葉の特徴や使い方に関する事項「漢字を読む」「漢字を書く」においては、目標値より大きく上回っている。</li> <li>言葉の特徴や使い方に関する事項の「連用修飾語（5年）」で14ポイント目標値を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。</li> <li>書くこと領域の「文章の書き表し方を工夫する」「二段落構成で文章を書く」においては、目標値より大きく上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として目標値、区平均、全国平均を上回っている。全体的に学習に取り組む態度は概ね定着している。</li> </ul>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名を正しく書くことを繰り返し指導していく。（指導計画）</li> <li>特殊音節の定着を図るために、文中で繰り返し使ったり、間違い探しをして表記方法を意識させたり、動作化して、視覚的に特殊音節を意識させたりする。（指導計画・授業構成）</li> <li>文章のまとまりを意識しての段落作り、鍵括弧の使い方や行の変え方を身に付けられるよう、「書くってたのしいね」を活用したり、文章を書かせるたびに確認を繰り返したりする。（指導計画・授業構成）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを友達に伝えられるようになるために、発表の仕方や話し方の例を示す。（授業構成）</li> <li>毎日取り組んでいるスピーチについて、話したい内容、聞きたい内容になるよう、課題を工夫する。（指導計画）</li> <li>あのねノートを継続し、書くことへの抵抗を減らすとともに、題材のヒントを定期的に示すことで、生活の中から話題を見つけられるようにする。（指導計画）</li> <li>授業の中での交流活動が考えの形成につながるよう、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習計画や一単位時間の流れ、その時間のめあてを児童にも示し掲示することで、見通しをもって学習できるようにする。（指導計画）</li> <li>単元や授業の終末に振り返りの時間を設け、児童自身がその時間に何を学び、どんな力が高まったのか、次に何を学ぶのか振り返り、次の学習に向けて意欲を高められるようにする。（授業構成）</li> <li>ノートの取り方やワークシートのまとめ方を工夫し、学習の積み重ねや既習事項を振り返ることができるよ</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字小テストを頻繁に行い、学習した漢字を確実に覚えられるようにする。(授業構成)</li> <li>文の中で漢字を使うことや、促音、拗音、長音の書き表し方を確実に習得するために、視写や聴写に取り組みせたり、書いた文章を推敲させたりし、表記方法を意識させる。(指導計画・授業構成)</li> </ul>	<p>対話の目的ややり方をはっきりさせてから取り組ませるようにする。(指導計画・授業構成)</p>	<p>うにする。(学習計画・授業構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読書に親しみ、意欲を高める読書学習司書と連携して、教材文に関する本を紹介する。(指導計画)</li> </ul>
---	---	---

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字を定着させるために、家庭学習での漢字ノートや定期的な小テストを実施していく。(指導計画)</li> <li>文章を書く際は、新出漢字や既習漢字を積極的に用いることを伝える。また、主語と述語の関係、接続語、指示語を正しく使えるようにしていく。(指導計画、授業構成)</li> <li>書き方チェックシートや「書くってたのしいね」を活用し、段落、句読点、引用、会話文の書き方など、原稿用紙の正しい使い方を身に付けさせる。(授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文では、文章構成、問いと答え、段落相互の関係、筆者の考えやその理由について、叙述を基に捉える学習活動を継続して行う。(指導計画、授業構成)</li> <li>物語文では、叙述を基に登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像して読む力を伸ばしていく学習活動を継続して行う。(指導計画、授業構成)</li> <li>文章を読んで、理解したことに基づいて、自分の体験や内容と結び付けて自分の考えを形成することができるよう授業構成を工夫する。(授業構成)</li> <li>書く活動では、自分の書いた文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりし、文章を推敲する力を高めていく。(授業構成)</li> </ul>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習課題を児童とともに設定し掲示することで、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫する。(指導計画)</li> <li>言語活動の充実や語彙力を高めるために、教科書や読書、調べ学習等で分からない言葉が出てきた時には積極的に国語辞典を用いて調べるよう声をかける。(学習習慣)</li> <li>授業の最後に、学習を振り返る時間を設け、何を学びどんな力が身に付いたのか、身に付いた力を今後の学習や生活にどのように生かすか表現できるようにしていく。(学習習慣、指導計画)</li> <li>読書に親しみ、意欲を高める読書学習司書と連携して、教材文に関する本を紹介する。(指導計画)</li> </ul>

	成)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流活動では、話し手が伝えたいことや、自分が聞きたいことを中心に話を聞くとともに、聞いたことを基にして、友達の意見との共通点や相違点に気づき、自分の考えがもてるよう指導する。(指導計画・授業構成)</li> </ul>	
--	---	--

### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を定着させるために、家庭学習での漢字ノートや定期的な小テストを実施していく。(指導計画)</li> <li>・修飾語や指示する語が指している語句や役割などを確認する活動を繰り返すことで、言葉を正しく使えるようにする。(授業構成)</li> <li>・語彙を増やすために、日常的に国語辞典や言葉の宝箱、新聞等を活用する。単元の初めに分からない言葉は辞書を使って調べさせ、学級全体で共有し、語彙力を高めていく。(学習習慣)</li> <li>・「書くってたのしいね」を活用し、連用修飾語などの文の構成、原稿用紙の使い方などを身に付けさせる。(授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文を正確に読み取るために、文章構成を把握したり、各段落の関係などを押さえたりする「構造と内容の把握」について重点的に指導していく。(指導計画)</li> <li>・内容の中心となる語や文を見付けられるように、キーワードやキーセンテンス、文章構成に注目させ、要約ができるようにさせる。(授業構成)</li> <li>・ワークシートや発問を工夫することで、物語文や説明的文章を読んで考えたことや感じたことを書き表すことができるようにする。(授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の始めに一人一人がもった感想を基に学習問題を立てることで、意欲を持続して課題に取り組むことができるようにする。(授業計画)</li> <li>・見通しをもって学習に取り組めるように、単元の進め方や毎時間の学習の流れを掲示していく。また、既習の学習を活用したりつなげたりして課題に取り組めるよう指導計画を立てる。(授業計画・授業構成)</li> <li>・ペアやトリオ、グループでの共有の時間では、話し合いたいと意欲を高めるためや、自分の考えを明確にもたせるように発問を工夫する。(指導計画)</li> <li>・読書の幅を広げ、関心を引き、意欲を高めるために、読書学習司書が教材文に関する本を紹介する。(授業計画・授業構成)</li> </ul>